



木村希

きむらのぞみ ●秋田県出身。2011年9月人文学部卒業。卒業後わずか3カ月で在学中に訪れて魅了されたマレーシアで起業。子どもの遊び場「Jkids」8店舗を展開。目標は5年以内に20店舗。

判断の成果

学生時代、マレーシアの5つ星ホテルでインターンシップ体験をした木村希さんは、初めて飛行機でマレーシアに降り立った瞬間、「ここが私のいるべき場所だ」と直感したという。運命の地でキッズビジネスを起業したのは、卒業のわずか3カ月後。インターン中に知り合ったビジネスパートナーとともに、子どもの遊び場Jkids1号店をオープンさせると約3年で8店舗を展開。5年以内に20店舗まで増やす計画だ。「目標はマレーシアのキッズビジネスを牛耳ること」と冗談交じりに豪語する木村さんだが、もともと起業家を志していたわけではない。大好きなマレーシアに留まる手段として、自ら起業するしかないと判断したのだった。それほどまでに木村さんを惹きつけたのは、多民族国家としてのお国柄なのか、人をありのままに受け入れてくれるマレーシアの人々の寛容さ。日本での生活に、多少息苦しさを感じていた木村さんにとっては特に心地よい環境だったらしく、そのマレーシアの人々のために何かできることはないかと考えた結果が、親子いっしょに安心して遊べる“屋内の公園”Jkidsの開設。天候や治安の問題で、なかなか外で遊ぶことができずに困っているマレーシアの親子を思っていたのだった。

臨床心理士をめざして進学した大学で入学直後にイベントサークルを立ち上げたり、7件のアルバイトを掛け持ちしたり、2年次で早くも将来の目標を転換したり、大学時代の思い出話は木村さんの行動力や瞬発力を物語るエピソードばかり。そんな木村さんの言葉の中でも印象的なのは「大学時代は自分が何なのか、何になりたいのかを模索する時期。もうすでに目標が明確な人は実現に向けてがんばればいいし、私のように自分のいるべき場所を見つけることから始めるというアプローチもありだと思う。好きな場所なら、そこで暮らす人々のために何かしたくなり、それがやりたいことにつながるはずだから」という先輩へのアドバイス。やりたいことが見つからないと焦るより、居場所探しから始めるという方法もあるということをも身をもって示してくれている。



山大聖火リレー



大好きなマレーシアの人々を笑顔にしたい。キッズビジネスで成長を続ける女性起業家。

木村希 Jkids マレーシア 経営



店舗をまわり現場のローカルスタッフと積極的にコミュニケーションを図る木村さん。彼らの声が、宗教や文化、日本とは全く違う環境でビジネスをする上で大きなヒントになる。



インド人の友人の結婚式に出席した際の写真。多民族国家のマレーシアでは、マレー人、中国人、インド人が共存。それぞれに個性豊かで華やかな結婚式に参加するのが毎回楽しみ!